

(対象事業 地域連携強化事業 地域文化資源整備活用事業・ミュージアム支援地域人材育成事業
国際交流拠点形成事業)

事業名：第3回関東地区博物館協会共同企画展
「関八州名所めぐり」

事業者名：第3回関東地区博物館協会共同企画展
実行委員会（中核館：千葉県立美術館）

住所：千葉市中央区中央港 1-10-1

TEL：043-242-8311

FAX：043-241-7880

HPアドレス：<http://www.chiba-muse.or.jp/ART/>

連携事業者名：茨城県立歴史館・(財)水府明徳会彰考館徳川
博物館・土浦市立博物館・栃木県立博物館・
群馬県立歴史博物館・さいたま市立博物館・
埼玉県立さきたま史跡の博物館・千葉県立関
宿城博物館・千葉県立房総のむら・千葉県立
美術館

会場：上記各館

事業期間：平成22年5月1日～平成23年3月15日



1. 館の使命と本事業の関係

各館は、それぞれの地域の歴史・文化を継承し、学習の場を提供することを使命としているが、収集資料の分野や地域に提供する事業内容は多様であり、広域で見ると相互に補完する活動を行っている。本事業は、共通テーマを設定しながら連携各館の独自の活動を活かしたものであり、開催館が共同して関東地区域内に広く多彩なサービスを提供できる。

2. 企画内容

①事業目的

関東地区(茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉5県の県域)で相互に補完する活動を行っている各館が、共通テーマを設定して共同で展示事業を行うことにより、各地域の考古・歴史・民俗・美術などの多様な博物館活動の認知度を向上させる。また、広域で多彩なサービスを提供するとともに、スタンプラリーにより利用者の訪問意欲を向上させ、潜在的な利用者也掘り起こして各館の活動の活性化を図る。

②事業概要

共通テーマを「関八州 名所めぐり」とし、各県、各地域の名所に焦点をあてて、絵図、絵はがき、案内パンフレット、写真、美術作品等の展示により紹介する。

事業の実施にあたっては、各県の観光事業の一環としても位置づけ、スタンプラリーを実施し、域内の代表的な博物館・美術館である連携各館の特色や事業を広く紹介する。

3. 事業実績

(1) 事業の主な内容及び日程

関東地区博物館協会加盟館のうち計 10 館が参加し、全体の共通テーマ「関八州名所めぐり」に基づいて、それぞれの館の特徴を生かした展示事業を行った。各館のテーマ、日程は次表のとおりである。

千葉県立美術館	①描かれた房総 ②神奈川・東京の名所絵	H22. 11. 27～H23. 1. 16
さいたま市立博物館	さいたまの名所ー『江戸名所図会』を道標にー	H22. 11. 30～H23. 1. 30
彰考館徳川博物館	大名の旅ー「日光従駕図」にみる天保 14 年の日光社参を事例にー	H22. 12. 1～H23. 1. 30
茨城県立歴史館	今昔 鹿島詣	H22. 12. 7～H23. 1. 23
栃木県立博物館	栃木の名所ー印刷物などにみる栃木の観光地ー	H22. 12. 18～H23. 2. 6
千葉県立房総のむら	下総名所巡り I	H22. 12. 18～H23. 2. 6
土浦市立博物館	水郷めぐりと筑波山ー遊覧都市・土浦とその時代ー	H22. 12. 18～H23. 2. 16
千葉県立関宿城博物館	第 11 回関宿城百景写真展	H23. 1. 8～H23. 2. 6
埼玉県立さきたま史跡の博物館	ほるとま展 2010 古代人のエコライフー出土品から見た原始古代のエコロジーー コーナー展示 忍藩の名所調べー「増補忍名所図会」に見る古墳・古代遺跡ー	H23. 1. 22～H23. 2. 27
群馬県立歴史博物館	第 90 回企画展 洛中洛外図屏風に描かれた世界 コーナー展示 浮世絵にみる群馬の名所	H23. 3. 5～H23. 3. 13

開催各館が委員となる実行委員会を組織し、共同企画展開催に係る準備、事務は実行委員会で行った。各館は、歴史資料、民俗資料、絵画、写真等によって関東各地の名所やその歴史などを紹介する展示を開催した。

共同企画展を行うにあたっては、幅広く学習機会を提供することとともに、関東地区に所在する多くの館種の博物館活動を広く認知してもらうことを目的とした。そのため、スタンプラリー事業を実施した。スタンプラリーは 10 館をめぐるパーフェクト賞と、常磐道・東関東エリア 5 館、関越道・東北道エリア 5 館をめぐる 2 つのエリア賞を設けた。

エリア賞は各エリア 5 館すべての記念品（各館提供）が揃うこととし、パーフェクト賞は別に特別記念品（関東地区博物館協会提供）を用意した。



土浦市立博物館展示風景



千葉県立房総のむら「お江戸おもしろ講座」風景

関連事業としては、各館で展示解説会やギャラリートークなどを実施している。また、個別には、千葉県立房総のむらが講演会（「お江戸おもしろ講座～下総名所巡り」）及び展示に関連した地域を巡る「むかしの町並み探検隊」を実施した。

共同企画展全体についての関連事業としては、千葉県立博物館が合同で実施している「千葉学講座」の中で「江戸・明治期の名所案内と名所土産」というテーマで全国的な観点からの講演会を開催した。

(2) 参加者の数

参加者（入館者）人数 延べ 63,708 人

内 訳：（右表）

スタンプラリー参加者

パーフェクト書 延べ 19 人

（人数は下記エリア賞と完全に重複）

常磐道・東関東エリア賞 延べ 26 人

関越道・東北道エリア賞 延べ 26 人

実質合計 延べ 52 人

(3) 事業により作成した印刷物等

展示紹介リーフレット 10,000 部

チラシ（スタンプラリー台紙） 20,000 部

ポスター 500 部

(4) 実施事業に関する新聞記事等

○新聞記事



豊かな自然、懐かしい情景
所蔵品19点「描かれた房総」展

千葉県・第3回関東地区博物館協会共同企画展「関八州名所めぐり―描かれた房総」 1月16日まで、県立美術館（〒043・242・8311）。入場料一般300円、高校・大学生150円、中学生以下無料。月曜、年末年始（27日～1月4日）、1月11日休館。

館山市船形の大福寺観音堂を描いた時田直善の「崖の観音」（1965年）一写真―や楳栗雄「船山から見た房総半島」（1948年）、宮澤祥の第1海壁（かいほ）を描いた三田康の「房総」（1965年）など19点。作品すべてに現在の写真も添えている。渡辺修一・普及課長は「房総半島を一周する形で展示している。写真と比べながら鑑賞すると、作家のフィルターを通して描かれた作品の魅力が味わえると思う」と話す。

関八州（かんはっしゅう）は江戸時代の関東8国を指す。今回は茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉の10博物館の共同企画展で、県内から県立美術館のほか、県立房総のむら「下総名所巡りⅠ」（2月6日まで）、県立関宿城博物館「第11回関宿城百景写真展」（1月8～2月6日）が参加した。【渡辺洋子】

千葉県・第3回関東地区博物館協会共同企画展「関八州名所めぐり―描かれた房総」 1月16日まで、県立美術館（〒043・242・8311）。入場料一般300円、高校・大学生150円、中学生以下無料。月曜、年末年始（27日～1月4日）、1月11日休館。

館山市船形の大福寺観音堂を描いた時田直善の「崖の観音」（1965年）一写真―や楳栗雄「船山から見た房総半島」（1948年）、宮澤祥の第1海壁（かいほ）を描いた三田康の「房総」（1965年）など19点。作品すべてに現在の写真も添えている。渡辺修一・普及課長は「房総半島を一周する形で展示している。写真と比べながら鑑賞すると、作家のフィルターを通して描かれた作品の魅力が味わえると思う」と話す。

関八州（かんはっしゅう）は江戸時代の関東8国を指す。今回は茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉の10博物館の共同企画展で、県内から県立美術館のほか、県立房総のむら「下総名所巡りⅠ」（2月6日まで）、県立関宿城博物館「第11回関宿城百景写真展」（1月8～2月6日）が参加した。【渡辺洋子】

千葉日報 平成 22 年 12 月 22 日

毎日新聞 平成 22 年 12 月 22 日

その他、ちば県民だより 12 月号、教育広報「夢気球」など広報紙誌に掲載（以上、千葉県立美術館）

日本経済新聞 平成 22 年 12 月 21 日

茨城新聞 平成 23 年 1 月 17 日（コラム記事で紹介）

茨城新聞 平成 23 年 1 月 20 日・1 月 27 日・2 月 3 日・2 月 10 日（連載記事）

常陽リビング紙 平成 23 年 1 月 29 日

その他、市広報、商工会議所会報等に掲載（以上、土浦市立博物館）

上記の例のほか、各館とも全国紙地方版、地方紙等に記事掲載

○テレビ等

IBS 茨城放送「さわやか Today 土浦」で紹介（土浦市立博物館）

4. 事業の成果及び今後の課題（参加者の意見を含む。）

関東地区博物館協会共同企画展は、試行として実施した第1回、7館が参加した第2回に続いて3回目の実施であった。第1回は、関東地区博物館協会が共通テーマの設定を行った上で実際の事業は各館に任せた。第2回からスタンプラリーを実施したが、関東地区博物館協会がスタンプラリー台紙を作成したのみで、広報は参加館に任せたため、効果は限定的で、スタンプラリー参加者も10人にとどまっていた。

この事業は、域内の博物館が協力して、関東地区の幅広い博物館活動を周知し、活性化を図ることが目的である。そのため今回は、これまで民俗分野に偏っていたテーマ設定を改善し、「関八州 名所めぐり」という参加しやすい共通テーマを設定して、歴史民俗系の博物館だけではなく、美術館をはじめとするさまざまな館種の参加が可能となり、参加館は計10館となった。また「名所めぐり」というテーマ設定には、各県・市の観光事業とタイアップする目的があった。例えば千葉県の場合、昨年度、千葉県教育委員会が選定した「ちば遺産100選・ちば文化的景観」で選ばれた文化財やそれらを巡るモデルコースと一致する展示を企画した館（千葉県立房総のむら）があり、実際に地元との連携によって、地域の文化財等を巡る関連事業を実施した。これまでの共同企画展では、関東地区博物館協会として広報活動を行わなかったが、上記のような企画が効果をあげるため、今回はチラシ、ポスター、リーフレットなど多くの印刷物を作成し、ポスターを沿線の主要駅で掲示するなど、関東地区の多彩な博物館活動をPRするための広報に力点を置いた。また、スタンプラリーの方法も、参加館が増えたことにより地域賞の設定が可能となり、関東地区を2つに分けたコースを設定した。そのためスタンプラリーへの参加者が増え、エリア賞・パーフェクト賞達成者は延べ71人（パーフェクト賞はエリア賞と完全重複するため実質延べ52人）となり、広域の多様な博物館活動の周知と活性化に一定の効果をあげたと考えられる。

参加者のアンケートでは、企画そのものへの賛意、好意的な意見が多かった。「このような企画がなければ他県の博物館を見る機会がなかなかない」「さまざまな館のいろいろな展示を見ることができてよかった」という声が多く、また、同様の企画があれば参加するという声がほとんどであった。一方で改善を望む意見も多い。第一には、今回の共同企画展がスタンプラリーを実施した事業でありながら、会期が揃っていない点、会期が短い点について、一様に改善を求められている。これは参加館が増えるほど調整が必要な事項となるが、実際に一部の館の開催期間が事情により当初の予定よりずれこんだため、全10館が同時に開催している期間がなかった。また、館により展示の規模や内容に差が大きかった。このことについては、準備にもっと時間をかけ、しっかりした企画展とするよう求める意見があり、加えて図録の作成を複数の参加者が求めている。さらに広報不足も指摘されている。広報印刷物の作成部数が教育機関への広報を想定していなかったため、各地域で小中学校への広報を積極的に行っていなかったが、児童・生徒の学習機会としてさらなる広報を求める意見があった。

今後は、アンケートで指摘された課題の改善が必要であるが、その中には広域の連携事業であることに起因する課題がある。開催期間の調整や全体の広報については、実行委員会事務局の業務となるが、実質的には事務局の学芸担当が、日常の館業務を行いながら1人で全体の調整や印刷物の編集を行っていたため、負担が著しく過大で、印刷物の作成に遅れも発生した。参加者の意見も今後への継続を求めているが、関東地区博物館協会としても引き続き同事業を実施していくことで一致している。今後は協会及び実行委員会内の組織、責任分担のあり方が最大の課題となるといえよう。